２　次の文章を読んで、後の問に答えよ。（出題の都合上、本文に省略した箇所がある。）　　　　　　　　　　　　　　　　　〈岡山大〉二〇二二年度出題

　かつて人々は死者を大切な仲間として扱い、対話と交流を欠かさなかった。死者だけではない。神や仏など目に見えぬもの、人を超えた存在と空間・時間を分かち合い、⑴そのために都市と社会のもっとも重要な領域を提供した。

　わたしは今世紀に入ったころから、各地の史跡をめぐり歩くようになった。よく行くのは古都や神社仏閣である。国内だけでなく、ヨーロッパの中世都市やインドの寺院、インドネシアのボロブドゥール、カンボジアのアンコール・ワットなどアジアの遺跡もたびたび訪れた。

　わたしたちは都市というと、人間が集住する場所というイメージをもっている。しかし、実際に古今東西の史跡に足を運んでみると、街の中心を占めているのは神仏や死者のための施設である。

　中世ヨーロッパでは、都市は教会を中心に建設され、教会には墓地が併設されていた。日本でも縄文時代には、死者は集落中央の広場に埋葬された。有史時代に入っても、寺社が都市の公共空間の枢要に位置する時代が長く続いた。そうした過去の風景を歩いていると、現代が、日常の生活空間から人間以外の存在をしてしまった時代であることを、改めて実感させられる。

　前近代の日本列島では、人々は目に見えない存在、自身とは異質な他者に対する生々しい実在感を共有していた。神・仏・死者だけではない。動物や植物までもが、言葉と意思の通じ合う一つの世界を構成していた。超越的存在と人間の距離は時代と地域によって異なったが、人々はそれらの超越的存在＝カミのまなざしを感じ、その声に耳を傾けながら日々の生活を営んでいた。

　カミは単に人とこの空間を分かち合っていただけではない。社会のシステムがアエンカツに機能する上で不可欠の役割を担っていた。定期的に開催される法会や祭礼は、参加者の人間関係と社会的役割を再確認し、構成員のつながりを強化する機能を果たした。祭りという大きな目的に向けての長い準備期間のなかで、人々は同じ集団に帰属していることが決してイグウゼンではないことを自覚し、自分たちをここに居合わせるようにしむけたカミのために、一致協力して仕事を成し遂げる重要性を再確認していくのである。

　自分たちの周囲を振り返ってみればわかるように、人間が作る集団はそれがいかに小さなものであっても、その内部に感情的なや利害の対立を発生させることを宿命としている。共同体の人々は、宗教儀礼を通じてカミという他者へのまなざしを共有することによって、構成員同士が直接向き合うことから生じるストレスとウキンチョウ感を緩和しようとした。

　中世に広く行われたには、集団の秩序維持に果たした神仏の役割が端的に示されている。起請文とは、ある人物ないしは集団がみずからの宣誓の真実性を証明するために、それを神仏に誓った文書であり、身分階層を問わず膨大な数が作成された。起請文の末尾には監視者として神仏がされ、起請破りの際にはそれらの罰が身に降りかかる旨が明記された。双方の言い分が対立したとき、起請文を作成した上で二人を堂社に籠もらせ、先に体に異変が起こった方を負けとする方法もしばしば取られた。

　だれかを裁かなければならなくなったとき、人々はその役割を超越的存在に委ねることによって、人が人を処罰することに伴う罪悪感と、罰した側の人間に向けられる怨念の循環を断ち切ろうとした。カミによって立ち上げられた公共の空間は、羊水のように集団に帰属する人々を穏やかに包み込み、人間同士がにぶつかりあうことを防ぐ緩衝材の役割を果たしていたのである。

　カミが緩衝材の機能を果たしていたのは、人と人の間だけではなかった。集団同士の対立が極限までエスカレートすると、⑵人はその仲裁をカミに委ねた。前近代の日本列島では、村の境界や日照りの際の川からの取水方法をめぐって共同体間でしばしば紛争が生じ、死傷者が出ることも珍しいことではなかった。その対立が抜き差しならないレベルにまでまったときに行われたものが、神判とよばれる神意を問う行為である。

　神判の代表的なものに、がある。これは熱湯のなかに手を入れてなかの小石などを拾わせるものであり、対立する双方の共同体から代表者を選出し、負傷の程度の軽い方を勝ちとした。両者に焼けた鉄片をエニギらせる鉄火という方法もあった。勝利した側に神の意思があるとされ、敗者側もその裁定に異議を差し挟むことは許されなかった。神の実在に対するリアリティの共有が、こうした形式による紛争処理を可能にしたのである。

　前近代の日本列島では、深山や未開の野には神がむと考えられていた。そのため、そこに立ち入ったり狩りを行ったりするときには土地の神に許可をえる必要があった。かつて猟師の世界では、狩りのために山に立ち入るにあたって数々の儀礼を行うことが不可欠とされてきた。また山中でも、言動をめぐって多くのタブーが存在した。

　その背景には、人の住まない山は神の支配する領域であり、狩りという行為は神の分身、あるいは神の支配下にある動物を分けていただく儀式という認識があった。そのため、狩りの対象は必要最小限に留め、獲物のいかなる部位も決して無駄にしないように努めなければならなかった。⑶それが乱獲を防ぎ、獲物をめぐる集団同士の衝突を防止する役割を担ったのである。

　カミは海峡をオヘダてた国家の間においても、緩衝材としての役割を果たしてきた。朝鮮半島との間に浮かぶ沖ノ島には、四世紀以来の長期にわたるの跡が残されている。日本から朝鮮半島と大陸に渡ろうとする航海者たちは、この島に降り立って、その先の海路の無事を神に祈った。

　島も大海原も、その本源的な支配者はカミであると信じられていた。かつて辺境の無人島はその領有を争う場所ではなく、身と心を清めて航海の無事を静かにカミに祈る場所だった。島だけではない。王の支配する国家の間に広がる無人地帯も、その本源的所有者はカミだった。人が住まない場所はカミの支配する領域だったのである。

　だが、近代に向けて世俗化の進行とカミの世界の縮小は、そうしたカミと人との関係の継続を許さなかった。人の世界からは神仏だけでなく、死者も動物も植物も排除され、特権的存在としての人間同士が直にする社会が出現した。人間中心主義としてのヒューマニズムを土台とする、⑷近代社会の誕生である。

　近代思想としてのヒューマニズムが、人権の拡大と定着にどれほど大きな役割を果たしたかについてはする必要もない。しかし、近代化は他方で、わたしたちが生きる世界から、人物間、集団間、国家間の隙間を埋めていた緩衝材が失われていくことを意味した。体にをはやした人間が狭い箱に隙間なく詰め込まれ、少しの身動きがすぐさま他者を傷つけるような時代が幕を開けた。

（佐藤弘夫『日本人と神』による）

問１　傍線部アイウエオを漢字に直せ。

問２　傍線部⑴について、「そのために都市と社会のもっとも重要な領域を提供した」とは具体的にどのようなことを指すのか、本文の内容に即して説明せよ。

問３　傍線部⑵について、「人はその仲裁をカミに委ねた」のはなぜか、その理由をわかりやすく説明せよ。

問４　傍線部⑶について、「それ」とは何を指すのか、本文の内容を踏まえてわかりやすく説明せよ。

◎ 問５　傍線部⑷について、「近代社会の誕生」とは、社会のどのような変化を意味するのか、本文全体の内容を踏まえて説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　ア＝円滑　　イ＝偶然　　ウ＝緊張　　エ＝握　　オ＝隔

問２　人がＡ死者や神仏などの目に見えないもの、超越的存在などと Ｂ空間・時間を分かち合い、対話と交流を欠かさないため、Ｃ都市の公共空間の中心に法会や祭礼を行う寺社や教会、墓地を置いたということ。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔死者＝目に見えないもの、神仏＝超越的存在のどちらかが欠けている場合は減点１。「超越的存在」は「人を超えた存在」という表現でも可。〕

Ｂ＝３〔「空間・時間」「対話・交流」のどちらかが欠けている場合は減点１。〕

Ｃ＝４〔「都市の中心に寺社や教会、墓地を置いた」という内容は必須。「都市の中心」は「人間が集住する場所」などの同内容も可。「法会や祭礼を行う」がなければ減点２。〕

問３　Ａ実在性が共有された超越的存在であるカミに裁定を委ねることで、Ｂ集団同士が Ｃ暴力的な紛争解決に至ることを未然に防ぎ得るから。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝４〔「カミ」の説明としての「実在性の共有」「超越的存在」がなければ、それぞれ減点１。〕

Ｂ＝２〔「共同体間」など同内容も可。「人と人の間」は不可。〕

Ｃ＝４〔「直にぶつかり合うことを防ぐ緩衝材の機能」という表現は減点２。〕

問４　Ａ狩りは神の分身または支配下にある動物をいただく儀式だと認識し、　Ｂ対象を必要最小限とし、Ｃ獲物は無駄なく用いるよう努めること。

Ａがなければ全体０。

Ａ＝４〔「神の分身」「神の支配下にある動物」のどちらかが欠けている場合は減点２。〕

Ｂ＝３〔解答全体で「対象」が「狩りの対象」であることがわかるようになっていること。〕

Ｃ＝３〔同内容可。〕

問５　Ａ超越的なカミの実在性を共有することで、Ｂ人間同士の直接の対立が緩和されていた社会から、Ｃ人間以外の存在が排除され、Ｄ特権的存在となった人間同士が直に対峙する他はなくなった社会への変化。

Ｃ・Ｄのどちらの内容にも全く触れていない場合、全体０（ＣまたはＤは必須）。

Ａ＝２〔「カミの超越性」「カミの実在性の共有」のどちらかが欠けている場合は減点１。〕

Ｂ＝３〔「直接の対立」は「罪悪感や怨念、暴力的な手段」でも可。「罪悪感や怨念」「暴力的な手段」のどちらかだけなら減点１。「緩衝材になっていた」という表現は説明不足で減点１。〕

Ｃ＝２〔「神仏だけでなく、死者も動物も植物も」など、同内容可。〕

Ｄ＝３〔「人間＝特権的存在」「人間同士の直接的対峙」のどちらかが欠けている場合は減点１。〕